

校長あいさつ

校長 喜久本 直貴

令和6年4月1日付県立読谷高等学校第30代校長に拝命いたしました、喜久本 直貴と申します。

本校は、私が教師として最も充実した日々を過ごした学校といっても過言ではありません。平成11年から平成18年までの数学教師として8年間教鞭に立たせていただいたこと、また、男女ハンドボール部の顧問として素晴らしい生徒との「出会い」に改めて感謝しております。あれから18年、校長として本校に戻ってきたことには実に感慨深いものがあり、新たな「出会い」という「縁」を感じます。

4月1日、読谷高校校長室に足を踏み入れる際に心臓の高まっていく鼓動は今でも忘れません。同時に、先人の方々が作り上げてこられた伝統の重責に胸が絞めつけられる思いをしたのも事実であります。私にとってこれからの教師生活の中で、最も長い年月を過ごすこととなる本校へ恩返しができるよう精一杯、愛情を注いで参ります。

さて、本校は、今年74年目を迎え、地域に根ざした中部の伝統校として歩んでおります。校訓である「誠実勤勉・融和協力・進取剛健」のもと、県内外、各分野で活躍されている卒業生は、2万2千人を超えております。令和5年度進路実績においては、県内外国公立大学44名、県内外私立大学・短大123名、就職14名など、生徒一人ひとりが進路を実現しております。

さらに、部活動においても、体育系13。文科系6、同好会・個人8 合計27種があり、学校・保護者・地域等と連携を密にしながら、各部活動の支援体制を充実させているところです。

今年度『激しく輝け読高生！ 読高生はダイヤモンドの原石である』を正門に掲げております。職員・地域等と一体となって「読高のダイヤモンドここにあり」を披露し、魅力ある読谷高校を築き上げるためにダイヤモンドの原石(=生徒)を磨き輝かせていきます。そのためにも保護者の皆様方には、本校の教育実践への御理解とともにお力添えをよろしくお願いいたします。

最後に、私自身が本校在任中、無限の可能性を秘めている読高生一人ひとりに感じた言葉があります。それは、『出会いで人は変わる』ということです。つまり、「人の出会いはそもそも縁がない人とは縁(出会い)がありません。追い求めて得られるものでもありません。自分自身が学ぶ意識を高め、自己成長させないと良い人とは出会わない。良い縁のためには「謙虚」であり、学ぶ姿勢が大事である。」ということです。読高生諸君！すでに「出会い」は始まっています。その「出会い」に気づき、生かして学び、夢実現に向かって突き進んでください。